

仰ぎて聖し わが学び舎

第 17号(拡大号)

文責 校長 浅原昭久

<https://hakubac.sakura.ne.jp/>

白馬国際フォーラム ～拡大版～

11/12(火)に開催された白馬国際フォーラム。すでにお便りにより写真等でお知らせしたところですが、家庭の皆さんに、子どもたちの感じたこと、考えたことなどを共有してほしい、そんな思いから、学校便りの拡大版を発行します。

白馬の魅力とは？ 外国から移住した人の思いとは？ 未来の白馬とは？ 自分はどうかあるべきか？ 生きる上で大切なこととは？

感性豊かな中学生が、何を感じたのか、何を考えたのか。未来を創っていく中学生の思いをご覧ください。



【20数名のゲストの方々と2・3年生が一堂に会して記念写真】



【シンポジウムの一コマ】



【右の写真はシンポジスト。手前から、デイブさん(エバーグリーンオーナー) ミラーさん(HIBA の会 会長)、武藤慶太さん(白馬ツーリズム事務局長)、草本朋子さん(白馬インターナショナルスクール設立準備財団 代表理事)】

白馬国際フォーラム 生徒の感想（部分抜粋）

「シンポジウム話を聞いて、故郷の白馬がどれだけ素晴らしい場所で、私は本当に恵まれているんだと改めて実感しました。白馬で今育っていることを誇りに思いました」

「白馬が日本、世界をリードできるように、この自然を守りながら、観光客も増え、もっといろいろな交流ができるような村になってほしい」

「シンポジウムではダイブさんの、『好きなものを見つけて、それを相手に教えたりして人生を楽しむ』という言葉が印象に残った」

「イアンさんの『どういう大人になるかは、今、決められる』という言葉が忘れられない」

「武藤さんの『外国人が住んでいたり観光客がたくさんいることを、特別じゃなくて普通にしたい』という言葉が、心に残っています」

「草本さんの『あなたの好奇心をガイドにして、自分の人生を生きろ』という言葉が、すごくカッコよかった」

「ソロモンさんが、『人生は楽しいこと、辛いこと、苦しいこともあるけど、途中でうずくまってはいけない。何度でも立ち上がって進んでいけ。君たちにはまだまだ未来がある』と話してくれて感動した。とてもよい機会になった。またこんな機会をつくってほしい」

「ディブさんの『高価じゃなくても、思い出に残ることを提供したい』という考え方にすごく共感したし素晴らしいと思う。白馬の自然は本当に守っていくべきものだとは再確認したような気がする」

「やっぱり英語を学ぶことは、将来の私たちのためであって、白馬のためでもあると思う」

「英語を話せるって、スゲエと思ったし、もっと頑張って英語の勉強をしようと思った」

「白馬に移住してきた人たちが、こんなに白馬のために動いてくれていると思うと、白馬に住む日本人として、私の心がなんか窮屈に感ずる」

「白馬に移住してきた方々が、今の白馬をよりよいものとするために、動いてくれていて、ありがたいと思ったけど、元々住んでいる私たちが、何か行動しなきゃいけないと思った。わたしは、これからの白馬をよりよいものにしていきたい」

「これからは、私たちの世代が、白馬を豊かにしていかなければいけないので、もっと白馬のことを知れたらいいなと思いました。今の白馬があるのは、いろいろな人が動いてくれていると知って、とてもありがたいことだなと思いました。持続可能な社会を目指してわたしも少しでも貢献したいです」

「みなさんが、白馬のためにこんなに努力できるのは、『～が好き』『～したい』という思いを強く持っているからなのかなあと思う」

「地球温暖化で雪が少なくなっているけど、新しい方法でもやっていくことが大切だ。自然や環境を守りながら生きていけることを、白馬から世界へと伝えていくことができる。そのためには、誰かがではなく、自分が。一人ではなく連帯、協力していくことが大切」

『白馬に住んでいる君たちが、これからの白馬を創っていかなきゃいけないんだよ』という言葉が、観光のことを考えもしなかった自分にとって、結構、衝撃的だった。自分の人生の選択で、白馬に来た人たちの言葉は説得力があって、身にしみた」

「マイクさんは、アメリカやヨーロッパなどの5つの国で生活してきて、その上で、『今いる白馬が一番好き』と言ってくれて、とても嬉しくなりました。また『人間みんな平等』ってことを言っていたんだけど、77歳でそんなことを言っていて、めっちゃすごいと思いました」

「シンポジウムで話してくださった皆さんは、白馬の未来を考えて本当に様々な活動をされていることを知り驚きました。自分の知らないところで、観光を盛り上げている人たちがいることを思うと、私は本当に恵まれた環境で育っているんだなと改めて感じました。その活動の根源として皆さんに共通しているのは、『白馬が好き』という気持ちがあることでした。『夢とパッション』という言葉が印象に残っていますが、まさにその通りだと思います。自分の好きなことのためなら、辛いことを乗り越えたり、何かを継続していくこともできるものだと学び、自分もこの地で好きなこと、やりたいことを見つけていきたいと思いました。一人ではできないことも、同じ考えの人と一緒に協力し、自分たちから行動していくことが大切だと学びました」

「・・・白馬を好きになってくれた一人一人のお陰で、今こうなっているんだ。ありがたいし、すごいな。あの人たちは選択してくれたんだ。白馬を。たくさんの選択をしなくてはいけないそんな中、その選択の一つ一つで、全然違う大人に、未来になっていくんだ。・・・」

「自然で遊び、成長することができるんだ！ 白馬は自然や観光の村として、今までと同じことをやるんじゃなく、もっと未来のことを考えて、行動していかないといけない。世界から人々が集まってくる白馬、いろいろな文化がある白馬になったら、すごくいいな。白馬だからこそ、私たちだからこそ、できることって、すごくいっぱいあるんだと思う。これからの白馬に、もっと自然と観光と多様性が広がっていけばいい。今日は本当に楽しかった！！」

「わたしは、ニック・コワルさんから、『未来の白馬は私たちが創るのではなく、今白馬に住んでいる中学生やその周りの人たちが創っていく』と聞いて、今まで白馬をよりよくするために、たくさんの人たちが白馬の自然やいいところをアピールして、白馬を盛り上げてきてくれたので、私たちはそれを引き継いで、さらによくしていかなければならないと思いました。……たくさん自然や素晴らしい環境に感謝しながら、自分のしたいことに向けて、いっぱい勉強して、自分もみんなも幸せになれるように頑張りたいです」

「シンポジウムの皆さんの話を聞いて、It's very great! と思いました。そして、将来の白馬に貢献しようと思いました。そして、今回、僕が大切だと思ったキーワードは、『自分の好奇心を自分のガイドに』という言葉です。ぼくは、スキーやマウンテンバイクなどのアウトドアスポーツが大好きで、そして、何より自然が大好きです。なので、これからもずっと白馬の自然を守り、それを誇りに思い続けようと思います。で、将来、白馬の観光に関わった仕事ができたらいいなと思いました。白馬国際フォーラムを通して、白馬をもっと世界に知ってもらいたいと思ったし、白馬で頑張る大人たちを見てカッコイイと思いました」

「この環境や景色を残したまま、シンポジウムの人たちが言ったように、年中、外国人の観光客が来られる白馬になったら、ぼくはとても幸せです」

2・3年生は、小グループにより座談会も実施。外国から白馬に移住された方々に、英語で質問したり話を聞いたりしました。さらには、グループごとにゲームをして、交流を深めました。



【運営委員の生徒の皆さんの打合せの様子(校長室)】

白馬国際フォーラムでは、20数名の生徒の皆さんが、自ら、運営委員に名乗りを上げ、一肌脱いでくれました。お陰で、無事、運営をすることができました。皆さん、ありがとうございました。